取扱説明書

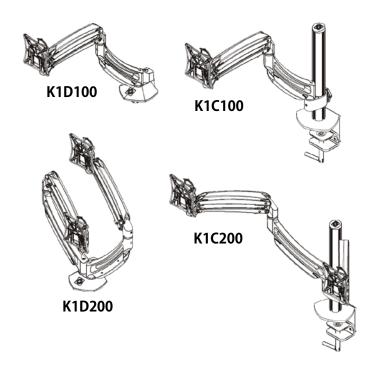
ディスプレイ用デスクマウント

型番 K1シリーズ

K1C100．K1C200．K1D100．K1D200．

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます

ご使用の前にこの 「取扱説明書」 をよくお読みの上正しくお使いください。

「安全上のご注意」は必ずお読みください。
お読みになったあとは、いつでも取り出せる様に保管してください。

お客様へ

●本製品は専門の取付工事業者指定の取付金具ではありません。お客様による設置取付が可能です。
●取扱説明書で指定しているネジや固定金具は、説明書通りの数量を確実に取り付けてください。

第002版 2014年 12月16日発行

安全上のご注意 | **ご使用の前に必ずお読みください**

警告と注意！

警告： この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が重傷を負う可能性がある内容を示しています。

注意： この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性、および物的損害が想定される内容を示しています。

⚠ 警告
部品を改造しないでください。また破損した部品は使用しないでください。落下などの事故やけがの原因となります。

⚠ 警告
取付けているネジがゆるんでいたり、抜けていたりすると、金具やディスプレイの落下につながり非常に危険です。

⚠ 警告
ボルトやネジ類は指定の位置に指定の本数を確実に取り付けてください。

⚠ 警告
開閉するドアや家具の扉にぶつかる場所には設置しないでください。また振動の多い場所や、大きな力が加わる場所には設置しないでください。落下や破損、けがの原因となります。

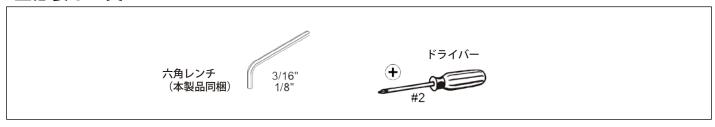
⚠ 警告
作業中、各種パーツや工具類に指をはさまないようにご注意ください。

⚠ 注意
運送による破損の可能性があるため、取付作業を行う前、確実に商品をチェックしてください。

設置場所について

- デスク面は総合荷重に長期間十分に耐え、地震や予想される振動、外力にも十分耐え得る様、十分に確認を行って下さい。
- 設置の前に、本製品（デスクマウント）とディスプレイの質量を確認のうえデスク面強度を確認してください。強度不足の場合は十分な補強を行ってください。
- 強度が不十分な壁面への直接取り付けは行わないでください。幅木や受け木天井吊り金具には取り付けないでください。

誤った取り付けや強度が不十分な取り付けを行った場合、デスクマウント、またはディスプレイが落下して重大な事故やけがの原因となります。
十分にご注意ください。

■必要な工具

■パーツ

本製品には下の図の様にディスプレイアーム（いずれか１本）、組み立て用ビス、組み立て用六角レンチが入っています。
製品の梱包箱を開けて、中身をご確認ください。

シングル
ディスプレイアーム
K1D100

シングル
ディスプレイアーム
K1C100

メインポール
（付属）

デュアル
ディスプレイアーム
K1C200

メインポール
（付属）

デュアル
ディスプレイアーム
K1D200

ビス

B （4 or 8） ※1
M4x14mm

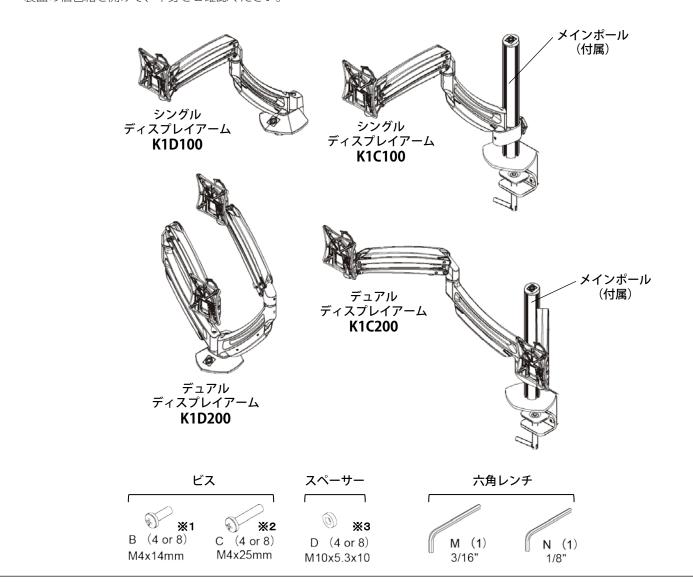
C （4 or 8） ※2
M4x25mm

スペーサー

D （4 or 8） ※3
M10x5.3x10

六角レンチ

M （1）
3/16"

N （1）
1/8"

（※1. ※2. ※3. のパーツについて）
K1C200のみ、各**8**個のパーツが付属しています。
K1C100. K1D100. K1D200 については各**4**個のパーツが付属しています。

■寸法（単位mm）

K1D100

100
75
最大水平回転角度
（左右に±90° ずつ回転）
ケーブルマネジメントカバー
VESAインターフェイス
（クイックリリース式）
高さ調整 373±165
ケーブルマネジメントカバー
120
前後伸縮寸法
53.14〜505.5
傾き角度
下向き10°
上向き75°
前後傾斜角度
調整用ネジ
取付可能な
デスクの厚み
19〜63.5
118

K1D200

411

ディスプレイの前面を合わせた形で並行に横に2台並べて取り付ける場合は
ディスプレイの横寸法が 887mm 以下の機種をご使用ください。

100
75
最大水平回転角度
（左右に±90° ずつ回転）
VESAインターフェイス
（クイックリリース式）
ケーブル
マネジメントカバー
リフトアーム式
高さ調整機構
537
205
ケーブル
マネジメントカバー
前後伸縮寸法
53.2〜505
傾き角度
下向き10°
上向き75°
取付可能な
デスクの厚み
19〜63.5
118

■寸法（単位mm）

K1C100

最小収納時188.1
～225

最小収納時

最大水平回転角度
（左右に±90° ずつ回転）

100

75

VESAインターフェイス
（クイックリリース式）

前後伸縮寸法
54～495

ケーブルマネジメントカバー

リフトアーム式
高さ調整機構

傾き角度
下向き10°
上向き75°

前後傾斜角度
調整用ネジ

高さ調整
231～834

手動高さ調整範囲
273

ケーブルマネジメントカバー

高さ調整ノブ

取付可能な
デスクの厚み
13～83

76

38

K1C200

ディスプレイの前面を合わせた形で並行に横に2台並べて取り付ける場合は
ディスプレイの横寸法が 927.1mm 以下の機種をご使用ください。

449

最大水平回転角度
（左右に±90° ずつ回転）

100

75

VESAインターフェイス
（クイックリリース式）

前後伸縮寸法
54～495

傾き角度
下向き10°
上向き75°

ケーブル
マネジメントカバー

リフトアーム式
高さ調整機構

高さ調整
231～835

手動高さ調整範囲
273

ケーブル
マネジメントカバー

高さ調整ノブ

取付可能な
デスクの厚み
13～83

76

38.1

1．メインポールをデスクに取り付ける（K1C100. K1C200.）の場合

❶ 図-1 のようにクランプをゆるめてください。
❷ クランプ部分をデスクに差し込んでください。
❸ 差し込んだあと、クランプをしっかりと閉め込んで固定してください。

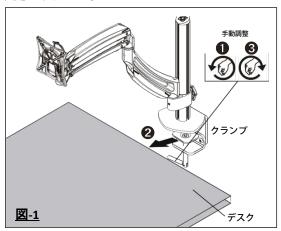
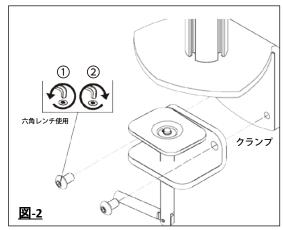
図-1

〈備考〉デスクが壁に密着している場合、またはデスク上のケーブルホールにメインポールを取り付けする場合などは図-2のようにクランプ部品を取り外してからデスクに取り付けることもできます。

図-2

2．ディスプレイアームをデスクに取り付ける（K1D100. K1D200.）の場合

❶ 図-3 のようにクランプをゆるめてください。
❷ クランプ部分をデスクに差し込んでください。
❸ 差し込んだあと、クランプをしっかりと閉め込んで固定してください。

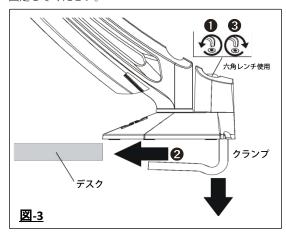
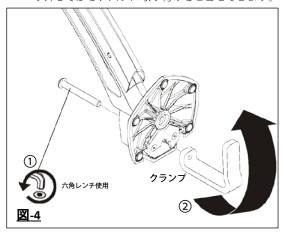
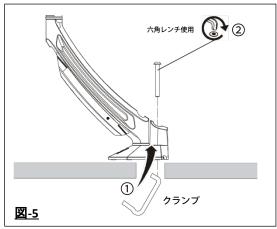
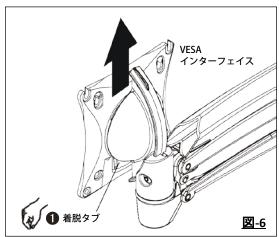
図-3

〈備考〉デスクが壁に密着している場合、またはデスク上のケーブルホールにディスプレイアームを取り付けする場合などは 図-4 図-5 のようにクランプ部品を取り外してからデスクに取り付けることもできます。

図-4

図-5

3. ディスプレイをディスプレイアームに取り付ける（K1C100. K1C200. K1D100. K1D200）

❶ 図-6 のように、着脱タブを押しながら**VESAインターフェイス**をメインアームから上方向に引きぬいてください。

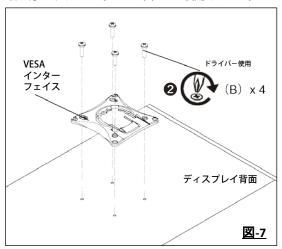
図-6

注意

VESAインターフェイスがメインアームに取り付けられた状態でディスプレイを取り付けることはやめてください。

バランスを崩して、ディスプレイやデスクの破損、またはケガをする原因になることがあります。

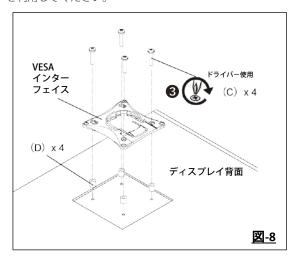
必ず、**VESAインターフェイス**をメインアームから外してから作業をおこなってください。

❷ 図-7 のように**VESAインターフェイス**をディスプレイの背面に取り付けてください。**ビス（B）**をご使用ください。

図-7

注意

ディスプレイは表面（表示側）に養生を施した上で、床などに寝かせた状態で作業をおこなってください。

❸ 図-8 のようにディスプレイ側の **VESAインターフェイス取付箇所**が凹んでいたり形状が平らでない場合は、付属のスペーサー（**D**）を利用してください。

図-8

❹ 図-9 のように**VESAインターフェイス**を取り付けたディスプレイをディスプレイアームに取り付けます。

上方向から確実に取り付けてください。

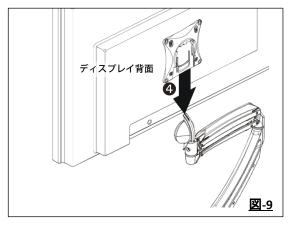
図-9

4. ディスプレイの高さを調整する（K1C100. K1C200. K1D100. K1D200）

図-10参照

アーム起点部分を中心として、アームを上下に動かすことで、ディスプレイの高さを調整することができます。

❶ 時計回りにまわすと、アーム起点部分のテンションがゆるくなります。（軽めのディスプレイ向きです。）

❷ 反時計回りにまわすと、アーム起点部分のテンションがきつくなります。（重めのディスプレイ向きです。）

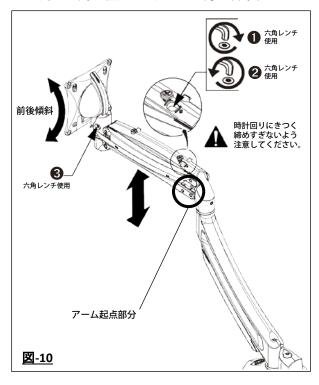
図-10

5. ディスプレイの傾斜角度を調整する（K1C100. K1C200. K1D100. K1D200）

図-10参照

ディスプレイ角度の傾斜角度を前後調整することができます。

❸ 反時計回りにまわしてビスをゆるめることで、ディスプレイの前後傾斜角度を変えることができます。

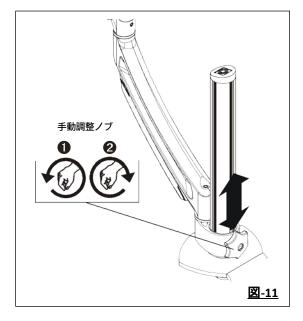
6. ディスプレイアームの高さを調整する（K1C100. K1C200.）

図-11参照

ディスプレイアーム部分をメインポール間で上下させることで、ディスプレイの高さを調整することができます。

❶ ノブを反時計回りにまわすと、ゆるくなります。（上下高さ調整が可能となります。）

❷ ノブを時計回りにまわすと、きつくなります。（ディスプレイアームの位置が固定されます。）

図-11

〈備考〉図-12参照　メインポールの取り外し

メインポール上部のキャップを外して、ディスプレイアーム部分を上にスライドさせることで、ディスプレイアーム部分を取り外すことができます。

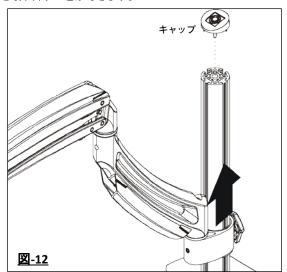
図-12

7. ディスプレイの正面回転角度調整（K1C100. K1C200. K1D100. K1D200）

図-13参照

VESAインターフェイスの部分を回転の中心としてディスプレイを自由に回転させることができます。

横使用・縦使用の変更が簡単に行えます。

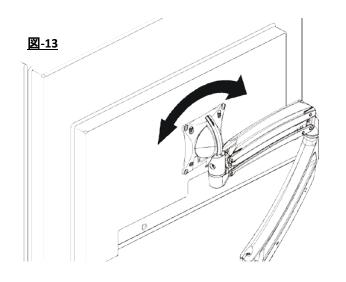
図-13

8. シングルディスプレイアームの水平可動範囲（K1D100. K1C100.）

図-14参照

中心点から左右方向水平にそれぞれ90°の範囲で可動させることができます。

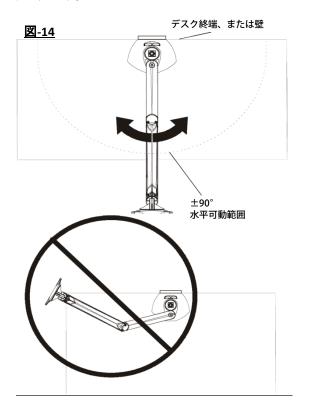
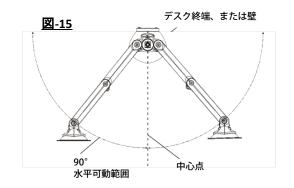
図-14

9. デュアルディスプレイアームの水平可動範囲（K1D200. K1C200.）

図-15参照

中心点から各々のディスプレイアームを左右90°の範囲で可動させることができます。

図-15

⚠ 注意

シングルディスプレイアーム、デュアルディスプレイアームともに可動範囲を超えて無理に動かすと、ディスプレイや壁やデスクなどの破損、またはケガをする原因になることがあります。

10．ケーブルカバーについて（K1C100. K1C200. K1D100. K1D200）

図-16参照

アーム部分に付けられたケーブルカバーの内部にディスプレイの電源ケーブルや映像音声ケーブルを収納することができます。

図-16 のように、マイナスドライバーなど先端の細く平らなものをケーブルカバーに差し入れると、ケーブルカバーが開けやすくなります。

図-16

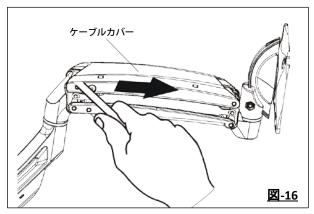



図-17参照

アームカバー内にケーブルがかくれますので、見た目がすっきりします。

図-17